

# **GIGAスクール構想のもとでの 高等学校地理歴史科の指導について**

# GIGAスクール構想のもとでの高等学校地理歴史科の指導において ICTを活用する際のポイント

## (1) 学び方や調べ方を大切に、生徒の主体的な学習を一層重視

高等学校学習指導要領（平成30年告示）第2章第2節地理歴史  
第3款の2 内容の取扱いについての配慮事項(4)

情報の収集、処理や発表などに当たっては、学校図書館や地域の公共施設などを活用するとともに、**コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用し、指導に生かすことで、生徒が主体的に学習に取り組めるようにすること。**その際、課題の追究や解決の見通しをもって生徒が主体的に情報手段を活用できるようにするとともに、**情報モラルの指導にも留意**すること。

**生徒が、自ら問題意識をもち、問題解決の見通しを立て、必要な情報を収集し、情報を読み取り、情報を分類・整理してまとめたりする学習活動の構成が大切である。**

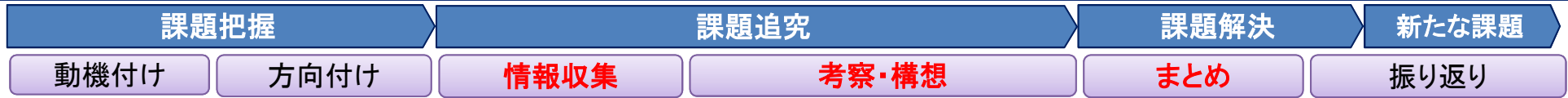
### ○環境の整備

- ・ 主体的・対話的で深い学びの実現につながるよう、生徒が学習において日常的にICTを活用できる情報通信機器の使用環境の整備

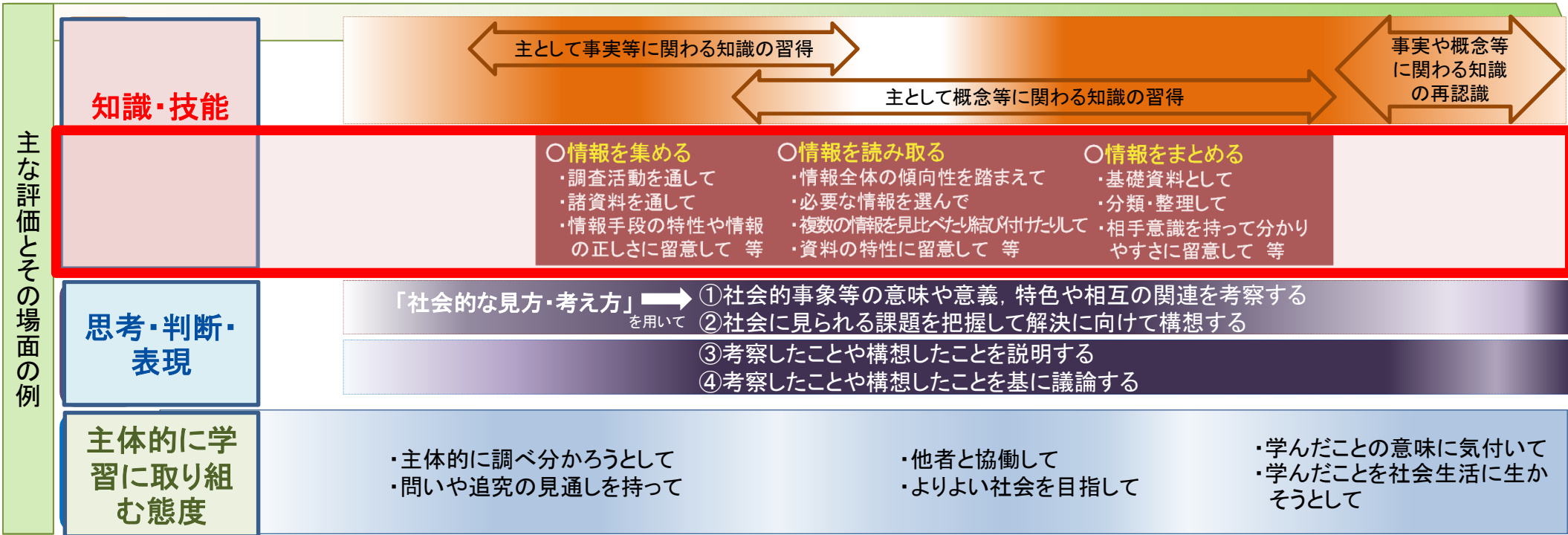
### ○指導上の留意点

- ・ ICTを活用した学習場面を想定し、単元を通じた授業デザインの必要
- ・ 情報モラルの指導への留意
- ・ 課題の追究や解決の見通しをもって生徒が主体的に情報手段を活用できるようにする指導

# 社会科，地理歴史科，公民科における学習過程のイメージ



主な学習過程の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>学習課題を設定する</b></li> <li>・社会的事象等を知る</li> <li>・気付きや疑問を出し合う</li> <li>・<b>課題意識を醸成する</b></li> <li>・学習課題を設定する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 課題解決の見通しを持つ</li> <li>・予想や仮説を立てる</li> <li>・調査方法，追究方法を吟味する</li> <li>・学習計画を立てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 予想や仮説の検証に向けて調べる</li> <li>・学校外での観察や調査などを通して調べる</li> <li>・様々な種類の資料を活用して調べる</li> <li>・他の児童生徒と情報を交換する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会的事象等の意味や意義，特色や相互の関連を考察する</li> <li>・多面的・多角的に考察する</li> <li>・話し合う(討論等)</li> <li>● <b>社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する</b></li> <li>・複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 考察したことや構想したことをまとめる</li> <li>・学習課題を振り返って結論をまとめる</li> <li>・結論について他の児童生徒と話し合う</li> <li>・学習課題についてレポートなどにまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>学習を振り返って考察する</b></li> <li>・自分の調べ方や学び方結果を振り返る</li> <li>・<b>学習成果を学校外の他者に伝える</b></li> <li>・新たな問い(課題)を見出したり追究したりする</li> </ul>
----------	---	---	---	---	--	---



■ **学習過程全体について留意すべき点** ■

- ・上記の学習過程及び評価の場面は例示であり，上例に限定されるものではないこと
- ・主体的・対話的で深い学びを意図した，単元の構成の工夫等が望まれること
- ・社会的事象等については，児童生徒の考えが深まるよう様々な見解を提示することなどが重要であること。その際，特定の事柄を強調しすぎたり，一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするなど偏った取扱いにより，児童生徒が多面的・多角的に考察し，事実を客観的に捉え，公正に判断することを妨げるようなことのないよう留意すること。また，客観的かつ公正な資料に基づいて指導するよう留意すること

# GIGAスクール構想のもとでの高等学校地理歴史科の指導において ICTを活用する際のポイント

## (2) 「社会的事象等について調べまとめる技能」の育成

高等学校学習指導要領（平成30年告示）第2章第2節地理歴史  
第3款の2 内容の取扱いについての配慮事項(2)

調査や諸資料から、**社会的事象に関する様々な情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける学習活動を重視**するとともに、**作業的で具体的な体験を伴う学習の充実**を図るようにすること。その際、地図や年表を読んだり作成したり、現代社会の諸課題を捉え、多面的・多角的に考察、構想するに当たっては、関連する各種の統計、年鑑、白書、画像、新聞、読み物、その他の資料の出典などを確認し、その信頼性を踏まえつつ適切に活用したり、観察や調査などの過程と結果を整理し報告書にまとめ、発表したりするなどの活動を取り入れるようにすること。

- 「**社会的事象等について調べまとめる技能**」を小学校社会科、中学校社会科、高等学校地理歴史科及び公民科の学習指導要領解説に共通して掲載
- 「社会的事象等について調べまとめる技能」を生徒に身に付けさせるため、**ICT機器を活用した学習活動のより一層の充実が求められる**

# 社会的事象等について調べまとめる技能

## 情報を収集する技能

等に段関を考するえ情て報課を題収集決するに必要能な社会的事象

### 【1】調査活動を通して

#### ○野外調査活動

- ・調査の観点(数, 量, 配置等)に基づいて, 現地の様子や実物を観察し情報を集める
- ・景観のスケッチや写真撮影等を通して観察し, 情報を集める
- ・地図を現地に持って行き, 現地との対応関係を観察し, 情報を集める

#### ○社会調査活動

- ・行政機関や事業者, 地域住民等を対象に聞き取り調査, アンケート調査などを行い, 情報を集める

### 【2】諸資料を通して

#### ○資料の種類

- ・地図(様々な種類の地図)や地球儀から, 位置関係や形状, 分布, 面積, 記載内容などの情報を集める
- ・年表から, 出来事やその時期, 推移などの情報を集める
- ・統計(表やグラフ)から傾向や変化などの情報を集める
- ・新聞, 図書や文書, 音声, 画像(動画, 静止画), 現物資料などから様々な情報を集める

#### ○その他

- ・模擬体験などの体験活動を通して人々の仕事などに関する情報を集める
- ・博物館や郷土資料館等の施設, 学校図書館や公共図書館, コンピュータなどを活用して映像, 読み物や紀行文, 旅行経験者の体験記など様々な情報を集める
- ・**コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用して, 目的に応じて様々な情報を集める**

### 【3】情報手段の特性や情報の正しさに留意して

- ・資料の表題, 出典, 年代, 作成者などを確認し, その信頼性を踏まえつつ情報を集める
- ・情報手段の特性に留意して情報を集める
- ・情報発信者の意図, 発信過程などに留意して情報を集める

## 情報を読み取る技能

え収方集にした沿っ情て報読をみ社会的技能見方考

### 【1】情報全体の傾向性を踏まえて

- ・位置や分布, 広がり, 形状などの全体的な傾向を読み取る
- ・量やその変化, 区分や移動などの全体的な傾向を読み取る
- ・博物館や郷土資料館等の展示品目の配列から, 展示テーマの趣旨を読み取る

### 【2】必要な情報を選んで

#### ○事実を正確に読み取る

- ・形状, 色, 数, 種類, 大きさ, 名称などに関する情報を読み取る
- ・方位, 記号, 高さ, 区分などを読み取る(地図)
- ・年号や時期, 前後関係などを読み取る(年表)

#### ○有用な情報を選んで読み取る

- ・学習上の課題の解決につながる情報を読み取る
- ・諸情報の中から, 目的に応じた情報を選別して読み取る

#### ○信頼できる情報について読み取る

### 【3】複数の情報を見比べたり結び付けたりして

- ・異なる情報を見比べ(時期や範囲の異なる地域の様子など)たり, 結び付け(地形条件と土地利用の様子など)たりして読み取る
- ・同一の事象に関する異種の資料(グラフと文章など)の情報を見比べたり結び付けたりして読み取る
- ・同種の資料における異なる表現(複数の地図, 複数のグラフ, 複数の新聞など)を見比べたり結び付けたりして読み取る

### 【4】資料の特性に留意して

- ・地図の主題や示された情報の種類を踏まえて読み取る
- ・歴史資料の作成目的, 作成時期, 作成者を踏まえて読み取る
- ・統計等の単位や比率を踏まえて読み取る

## 情報をまとめる技能

に読向みけ取ったまと情報るを技能題解決

### 【1】基礎資料として

- ・聞き取って自分のメモにまとめる
- ・地図上にドットでまとめる
- ・数値情報をグラフに転換する(雨温図など)

### 【2】分類・整理して

- ・項目やカテゴリーなどに整理してまとめる
- ・順序や因果関係などで整理して年表にまとめる
- ・位置や方位, 範囲などで整理して白地図上にまとめる
- ・相互関係を整理して図(イメージマップやフローチャートなど)にまとめる
- ・**情報機器を用いて, デジタル化した情報を統合したり, 編集したりしてまとめる**

### 【3】情報を受け手に向けた分かりやすさに留意して

- ・効果的な形式でまとめる
- ・主題に沿ってまとめる
- ・レイアウトを工夫してまとめる
- ・表などの数値で示された情報を地図等に変換する



# 高等学校・地理 A・「自然環境と防災」①

## 育成を目指す資質・能力

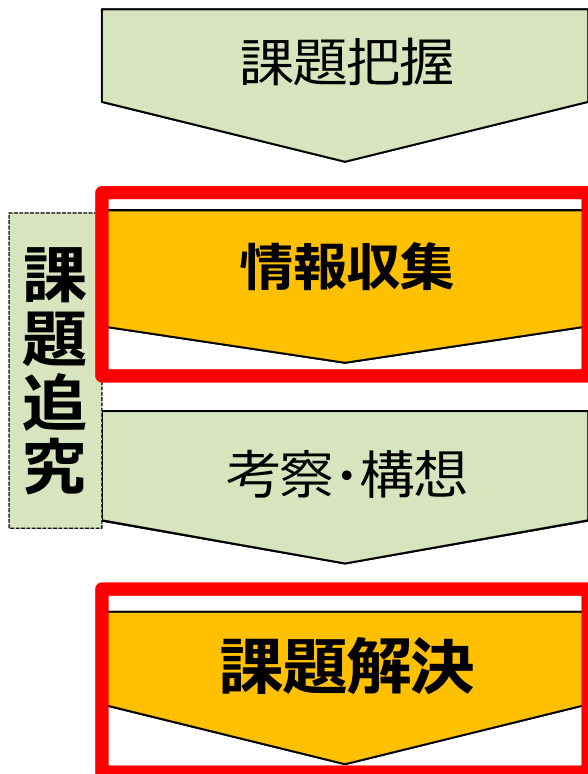
我が国の自然環境の特色と自然災害とのかかわりについて理解するとともに、国内にみられる自然災害の事例を取り上げ、地域性を踏まえた対応が大切であることなどについて考察する。地形図やハザードマップなどの主題図の読図など、日常生活と結び付いた地理的技能を身に付けるとともに、防災意識を高める。

## ICT活用のポイント

生徒一人一人が「なぜ『地形を知り、災害を知り、災害に備える』ことが大切なのか」などの問題意識をもち、問題解決の見通しをもった後、必要な情報を収集したり、収集した情報を読み取ったり、読み取った情報を分類・整理して話し合ったりする際に1人1台のICT端末を活用することで、学習活動の幅を広げることができる。

## 事例の概要

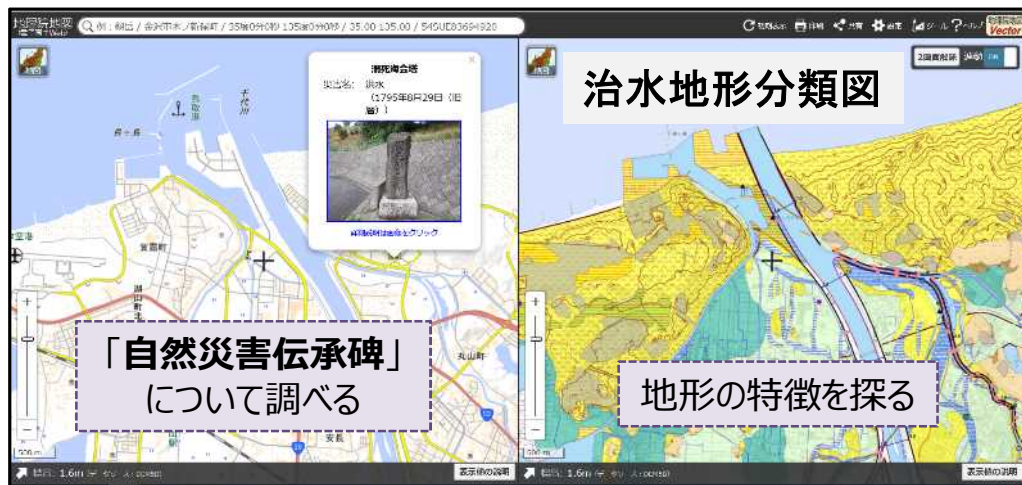
- 「**学習課題の解決に向けて必要な情報を収集する場面**」において  
生活圏の防災について、地域の自然環境や地域の変容などに着目し、多面的・多角的に考察する。汎用的な地理的技能として、『地理院地図』を活用する技能を高めるとともに、公的機関が提供するウェブサイトを活用し、信頼性の高い情報を収集する技能を身に付けることができる。また、生活圏における自然災害の危険を具体的に認識し、防災意識を高めることが期待できる。
- 「**学習を振り返って考察する場面**」において  
タイムライン作成シートをダウンロードし、単元の学習を通して身に付けた知識及び技能を基に、自分自身の生活と結び付けて災害時のタイムラインを作成する。取るべき対策についての議論を基に、具体的な防災対策について考えを深めるとともに、地域性を踏まえた防災の大切さについての理解を深めることができる。また、単元の学習を振り返り、地域の人々の防災に対する工夫や安全への強い思いについての理解を深め、自助・共助などの行動に結び付けることができるようにすることも視野に防災意識を高める。



# 高等学校・地理 A・「自然環境と防災」②

単元全体に関わる問い：「なぜ『地形を知り，災害を知り，災害に備える』ことが大切なのか」

【学習課題の解決に向けて必要な情報を収集する場面】



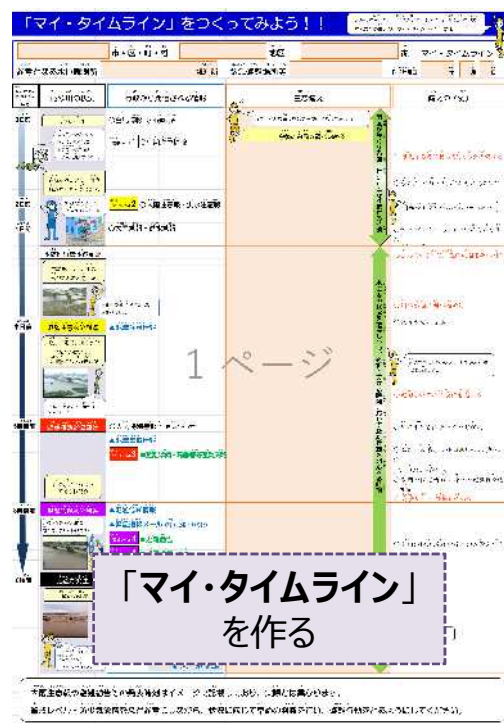
問い：「過去にどのような災害があったのだろう。また，水害が発生しやすいのはなぜだろう。」

- 『地理院地図』を使って，「自然災害伝承碑」の位置や地形の特徴などを調べる。

ICT活用のメリット

- 生徒の関心を高める資料の提示
- 信頼性の高い情報にアクセスする技能の習得

【学習を振り返って考察する場面】



問い：「災害時の備えについて考え，タイムラインを作ってみよう。」

- マイ・タイムラインのシートに沿って災害時の備えについて考えるとともに，単元の学習を振り返って防災についての課題意識を高める。

ICT活用のメリット

- ワークシートを簡単に配布、共有
- 生徒一人一人の実態に応じた動画閲覧

みんなでタイムラインプロジェクト

<https://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/shimodate00285.html>

<https://www.ktr.mlit.go.jp/river/bousai/index00000043.html>

【活用したソフトや機能】 ウェブブラウザ，表計算ソフト(マイ・タイムライン)

# 高等学校・日本史B・「明治維新と立憲体制の成立」①

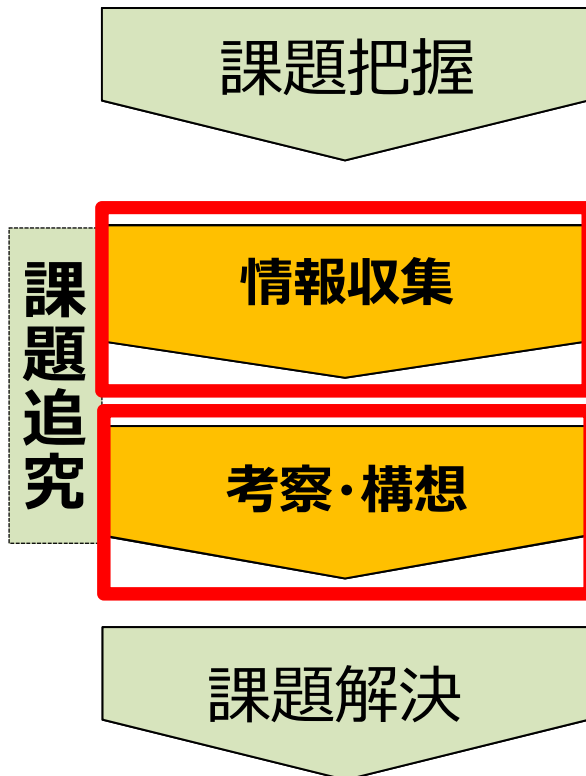
## 育成を目指す資質・能力

資料を読み取る技能を高めるとともに、読み取った情報から、近代日本における立憲体制の特色について考察、理解する。博物館などが公開しているデジタル資料の活用を通じ、歴史資料への関心、資料保存・公開施設の役割や文化財保護への関心を高めることで、生涯にわたる学習の大切さに気付くようにする。

## ICT活用のポイント

デジタル・アーカイブを活用することで、生徒一人一人が歴史上の当事者(この場合は天皇や政府)が示した実際の歴史資料を扱い、彼らの政策意図や当時の在り方を直接資料から読み取ることができる。必要な情報を収集して読み取ったり、読み取った情報を分類・整理して話し合ったりする際に、1人1台のICT端末を活用することで、深い学びに向けた学習改善を図ることができる。

## 事例の概要



### ○「学習課題の解決に向けて必要な情報を収集する場面」において

大日本帝国憲法の前文の役割を示している天皇の言葉である「上諭」を、生徒が普段使い慣れている言葉に意識する学習活動を通して、資料活用の技能を高める。博物館や資料館などが公開しているデジタル資料を活用することで、資料の形態や保存状況にも着目し、保存・保全などの努力が図られていることに気付くようにする。

### ○「考察し、構想する」場面において

読み取った内容を基に、憲法の内容の概略と、当時の天皇や政府が憲法をどのように意味付けて公布したのかについて考察し、グループで話し合う。気付いたことを、1人1台のICT端末を活用して発表やクラスでの共有を行うことを通して、近代の日本の立憲体制の特色について考察し、理解する。

また、授業前に、各自がICT端末を活用して、小・中学校の学びを踏まえた「大日本帝国憲法」のイメージを記録し、授業後の成果と比較することで、自らの学びの深まりを確認することができる。

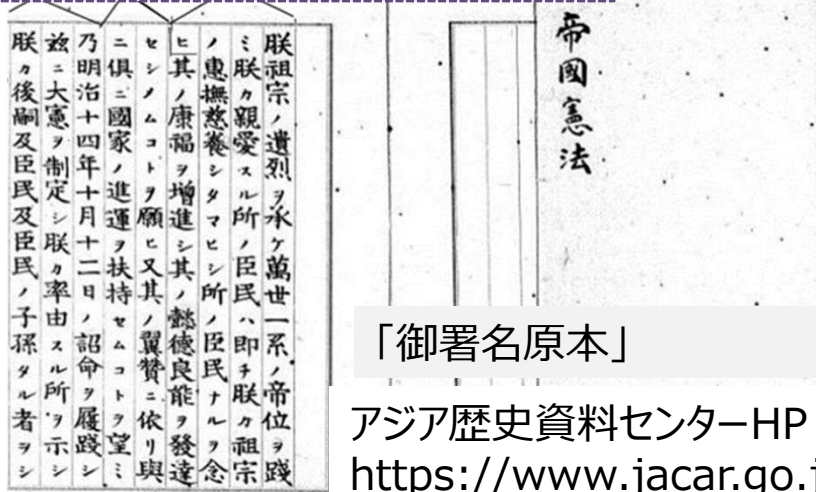


# 高等学校・日本史B・「明治維新と立憲体制の成立」②

学習課題：「日本の立憲体制の特徴を探ろう」

【学習課題の解決に向けて必要な情報を収集する場面】

「御署名原本」の「上諭」(天皇による憲法公布の言葉)を分担して意識する。



**課題（問い）**：「大日本帝国憲法の内容や制定の意義を示した天皇の言葉を、普段の言葉に訳してみよう。」

- アジア歴史資料センター「御署名原本」の「上諭」部分を、電子辞書などを使用して、「意識」する。

**ICT活用のメリット**

- 様々な歴史情報のデータベースの活用により、学習のねらいを踏まえたに適切な資料を収集、考察

【考察し、構想する場面】



グループで「憲法と天皇の関係」「天皇と内閣・議会の関係」「天皇と臣民（国民）の関係」などについて話し合い、気付いたことを他のグループとも共有する。

**課題（問い）**：「自分たちで訳した資料を基に、a:憲法と天皇の関係、b:天皇と内閣・議会の関係、c:天皇と国民(臣民)の関係、についてまとめてみよう。」

「近代日本の立憲体制の理解について、新たに気付いたことをまとめてみよう。」

- 他者と協働して考察したことを整理し、クラス全体で共有する。
- 授業前に記述した自身の見通しを授業後に確認し、自分の考えの変化について振り返り、それを共有する。

**ICT活用のメリット**

- 資料に活用した考察や理解の深まりと、協働的な学習による自らの考えの深まりの確認

【活用したソフトや機能】 ウェブブラウザ ファイル共有機能

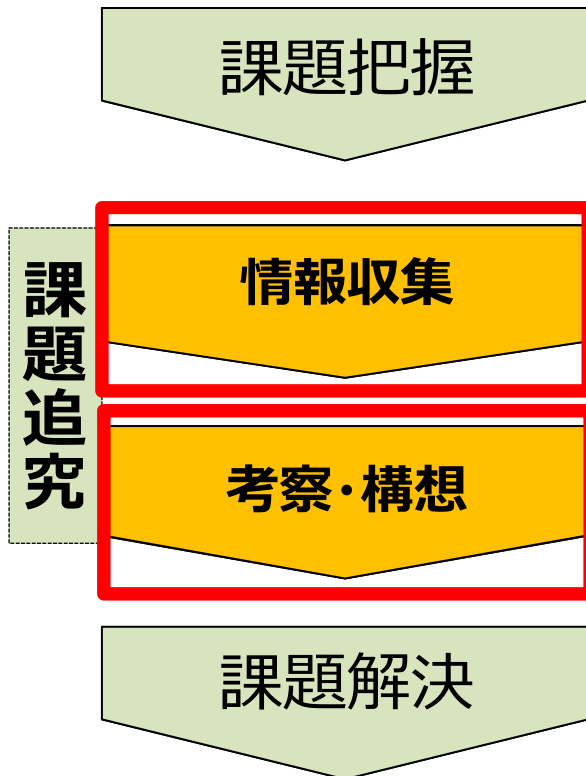
# 高等学校・世界史B・「産業社会と国民国家の形成」①

## 育成を目指す資質・能力

18世紀後半から19世紀におけるヨーロッパとアメリカの諸革命を基に、大西洋両岸諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどについて考察することを通して、ヨーロッパやアメリカ合衆国に近代民主主義社会の基礎が成立したことを構造的に理解するとともに、課題を主体的に探究しようとする態度を養う。

## ICT活用のポイント

生徒一人一人が、課題の教科書や資料集を用いて読み取り整理した情報を教材とすることで、生徒の学習意欲を喚起することができる。問題意識をもち、問題解決の見通しをもった後、必要な情報を収集したり、収集した情報を読み取ったり、読み取った情報を分類・整理して話し合ったりする際に1人1台のICT端末を活用することで、学習活動の幅を広げることができる。



## 事例の概要

- 「**学習課題を把握し、課題解決の見通しを持つ**」場面において  
大西洋を囲む諸地域で起こった動き（産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立）について、「大西洋を囲む諸地域で起こった動きは、諸地域にどんな変革をもたらしたのか。」を学習課題として提示し、課題解決の見通しを持つために、「どのような変革が起こったのか」について、教科書や資料集や教師が準備した諸資料から、生徒が項目ごとに情報を整理することで、情報を端的に整理する技能を習得することができる。また、生徒一人一人が整理した情報をクラス全体で共有し教材とすることで、生徒の学習意欲を喚起することが期待できる。
- 「**学習課題の解決に向けて必要な情報を収集する場面**」において  
生徒一人一人が入力した大西洋を囲む諸地域で起こった動きに関する情報を用いて、時期や年代で並べ替えたり、地域ごとに配置したり、生徒相互で対話することなどを通して、それぞれの変革の特徴や一連の変革の共通点と相違点を考察し、その影響を考察することができる。

# 高等学校・世界史B・「産業社会と国民国家の形成」②

学習課題：「大西洋を囲む諸地域で起こった動きは、諸地域にどんな変革をもたらしたのか」

## 【学習課題の解決に向けて必要な情報を収集する場面】

教科書や資料集の他，教師が準備した諸資料から情報を整理し入力



**課題（問い）**：「この時期の欧米では、どのような変革が起こったのだろうか。」

- 19世紀に大西洋世界で起こった経済的・政治的・文化的な変革（産業革命，フランス革命，アメリカ諸国の独立）について，教科書や資料集や教師が準備した資料を項目ごとに整理して入力し，クラウド上で共有する。

### ICT活用のメリット

- 情報を整理し，端的に自分の考えをまとめる技能を習得
- 生徒一人一人が整理した情報を共有することができる

## 【考察し，構想する場面】



項目ごとに整理した情報を共有し，その情報を分析することで，学習課題について考察

**課題（問い）**：「一連の変革の動きには、どのような共通点と相違点があるだろうか。また、これらの変革の動きは、社会全体にどのような影響を及ぼしたと考えられるだろうか。」

- 項目ごとに整理した情報を，時期や年代で並べ替えたり，地域ごとに配置したりすることを通して，それぞれの変革の特徴や一連の変革の共通点と相違点を考察し，その影響を考察する。

### ICT活用のメリット

- 作成した情報を教材とすることにより，学習意欲を喚起
- 情報を並べ替えたり，比較したり，追加することが容易

【活用したソフトや機能】 学習支援ソフト（ファイル共有機能）